



マラソン

無我夢中で走る。

何もかも消えて

ただ走るだけ。

ただがんばるだけ。

ハアッ ハアッ フウ。

どべとか一番とか

そんなことは頭にない。

足がつっても、

汗が背中を流れても、

ただがんばり走り通すだけだ。

(六年 津曲秀美)

昭和52年2月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会



(リズムに乗って一六ツ美北部小)



# 立春大吉

樋口鐵巖

ことであつた。

禪寺では正月に、立春大吉・鎮防火燭のお札を檀家に配るならわしになつてゐる。年の始めに一年の計をたてるとともに、開運増長を祈るのは人の心の常である。先日、新春祈禱大般若と月参講のお札を施主に届けるため、奥殿の或るお宅に向うと、庭先に年古りた臘梅がふくよかに綻びかけているのが、清新の気を誘つた。五十二年はまさに動き始めた。

正月に竜泉寺のあるお宅を訪問すると、ご夫婦共、病床の中を起きて、東京の短大一年生のお嬢さんといっしょに応待してくださつたが、お嬢さんの大学生活が話題の中心となつて、親御さんの子を思われる情の深さに、あらためて打たれた

細川団地の幼稚園の主事さんが、キャンパスクラブを結成して、二十数人の子供さんや父兄と共に、元旦に村積山に登り、初日の出を拝んだ後、山裾にある拙寺本堂で坐禪をした。そして枯木を拾い集めて暖をとる、お汁粉をつくり、新春を祝つたことは今年が初めてであつた。坐禪といへば、昨年オリンピックの射撃選手が、駒立の射撃場での練習を終えた後、揃つて当山へ来て、一時間足らずではあるが、二日間にわたつて坐禪をしてゆかれた。きいてみると、技術には十分自信があるが、最後はやはり心の落着きであるとの由であつた。

昨年暮近くに、岡中の同級会が持たれ、四十八年振りにお会いした級友があつたが、手をとって話すうちに、昔の中学時代のことが思い出され、級友のよさにしみじみひたつた。また「私ももう五十才になりました」と添書きのしてある、嘗ての教え子からもらつた年賀状を上げしげと見入り、あれこれと思いを廻らした。数えてみれば、これもまた、三十七年前のことであつた。その方の生活の一片がうかがえる年賀状を頂くのは本當にうれいものだ。気まづいことがあつても年賀状を下さるのには有難い。差上げた年賀状に添えて頂けないのは、病氣をしてみえるのではないかと心配になる。小学校からの級友が、「齢すでに還暦を過ぎたからには、もつと自分を大切にしたい。それで奈良の薬師寺に毎月車で写経に出かける」と信仰に目覚め、真実の自己を見出すことに励むようになつたと述べられたが、感心なことである。道元禪師は「身心自らも愛すべし。自らも敬ふべし」と教えられる。

(竜溪院住職)



## 授業参観日

●日頃を大切に

毛受則雄

毎月、授業参観日が近づくと、今月ほどの教科にしようか、どんな教材にしようかと悩むことが多かつた。見応えのある、実り多いものにしなくてはと、必要以上に神経を使つたからだ。

しかし、父兄の目を意識してスタンドプレーを試みると失敗しがちである。児童が、日頃と違うことにより緊張するからである。自分をあまり飾らず、その人間性を余すことなく発揮することによつて児童も共感を覚え、父兄も感動を与ええる授業ができるのではないかと思ひはじめた。

参観後、父兄と懇談会をもち、児童の作品について話し合つたり、家庭でのしつけについて話し合つたりしたことも、今では楽しい思い出である。(美川中)

●一緒にね!

市川起左子

三十歳という年齢を期に、初めて「先生」になつた。二年目の今年は、一年生



## 平らな山頂

## 岡崎の地形 II



桑田変じて滄海となる。  
日本沈没に端を発した大地震説も、地質学の時間尺度で見れば大しておどろくには値しない。事実、かつて深海の底であった所が現在は雲にそびえる山頂であることも珍しくないからである。

安城台地から岡崎の方角をながめると岡崎城の背景になる東方の山々は、非常に山頂が平坦である。日頃見慣れている風景なのであまり気付かない人も多いと思うが、他所からやって来た人は意外と興味を示す。特に地質・地形を学んだ人にはとても気になることらしい。

実際、山頂に登ってみると、尾根はやせており、例えば安城台地のような平坦な所はない。しかし四方の山なみを見わたすとやはり山頂の高度はほとんど高低なく、まるでおしよせる波のように幾重にも重なって見える。

このような平坦な山頂は岡崎だけではなく、はるか惠那山から本宮山まで、美濃、三河一帯に広がっている。これをむかしの地理学者は三河高原（三河準平原）と名付けた。現在では三河小起伏面と呼ばれている。かつての平原の名残りである。

いくら高い山でも、長年月風雨にさらされれば土砂をけずられ、谷をうがたれて低くなり、丸くなり、ついには浅くなった谷底にも土砂がうまって平坦な土地になつてしまはずである。そのような土地が、もし、地殻変動などで高く持ち上げられたとしたらどうだろう。雨水による浸食作用でふたたび谷はよみがえり相対的に「山」が形成される。これは中学校でもかつて教えていた地形の輪廻である。三河高原は、この輪廻の、比較的に若い段階の地形なのである。準平原地形は、地殻変動のほげしい日本では各地に

見られる地形なのである。

ところで、谷が若返ると、一度に深い谷を形成するのではない。川下から川上に向けて河床を堀り下げながら後退する。青木川も郡界川も、下流の方は川底が岩盤を洗う峡谷の様相を呈しているのに、上流の額田郡に入ると、谷底は浅く広くなり、山奥といった感じがなくなる。これは、古い平原時代の谷底がほとんどそこなわれずに残っているからである。作手高原などはその典型で、常磐南学区付近もそのような地形である。

ところが、同じように山頂が平坦であっても、藤川の牛乗山から生平の碁盤石山に続く平坦な山頂はこれとはやや成因が異なっていると考えられる。かつて上にかぶっていたやわらかい堆積物が洗い流され、堅い基盤の片麻岩が現われた、一種の差別浸食の結果だと思う。

さて、三河準平原のできた時代であるが、美濃から尾張、知多半島にかけて広く分布している湖成層、東海湖と呼ばれる大きな湖に堆積した砂礫や粘土と同時代であろうと考えられている。しかし、岡崎付近について、時代を推察するこれと言った証拠は見つかっていない。

最近の小呂・箱柳付近の山々は、あわれなものである。大自然が何万年もかかっている仕事をアルドラーザがあつという間にかたづけられてしまう。文明の勝利と単純に片付けてしまつてよいものか、まったく不安である。

(福岡小 竹内昭次)

を受け持った。入学以来、私を「お母さんノじやなかった」と、よくまちがえて呼ぶ子がいた。また、私の胸に、そつと手をあてがってくる子もいた。初めての授業参観日に謎が解けた。一人は、何やら私とよく似たタイプの方、もう一人はとても豊かな胸の方。私は、そつと、心の中で笑つてしまった。

同年輩のお母さん方の子供に対する悩みは、私がうちの子に対するものとまるで同じ。つい、我が身にひき比べて物考え、そして、いつもこうお願いする。「お母さん、勉強しましょう。」(六名小)

## ●その日の私

小沢弘

新卒である私が今でも思い出すのは、最初の授業参観日である。

一身に集まる父母の視線をうけながら、あせりと混乱で喉がカラカラになった。なんとかして活発に学習活動をする子どもたちを見せようと悪戦苦闘したにもかかわらず、何を指導したのかわからないうちに終わってしまった。

その後、私は授業における二面の自分の姿が気がついた。それは、指導員訪問と父母の授業参観のときの自分である。

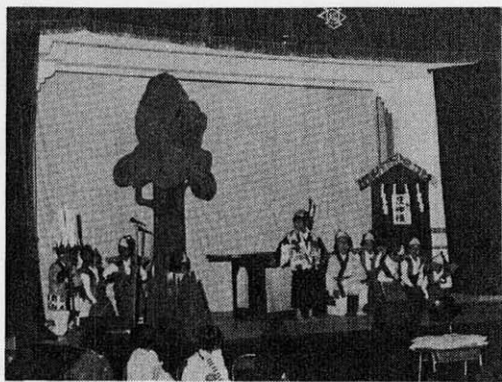
前者は、私自身をよく見てもらおうと意識しがちになり、後者は、子どもたちをよく見てもらおうと努力する自分である。あくまでも子ども中心に考える後者の方向に努力していきたいと思つている。

(大門小)



### ◀ 犬頭神社の鳥居 六ツ美北部小

犬頭神社の古い鳥居に向かって、子どもたちが石を投げて遊びだす。すると、白煙とともに老人が現われて、約400年前の昔を語り始める……。(作 鈴木 忍)



## 郷土に学ぶII

### — 郷土劇 —

機会あるごとに、郷土岡崎の姿を、子どもたちに正しく語り伝えたい。

郷土劇には、先人の「生きざま」が語られている。そして、創り演じる者の「もののみ方」が込められている。それだけに、人・物・事の関わる「事実の重み」を大切に扱いたいし、先人の歩みに寄せる「敬愛の深さ」を問題としたい。

感動は、思想と場面と表現との調和によって醸し出されるものである。

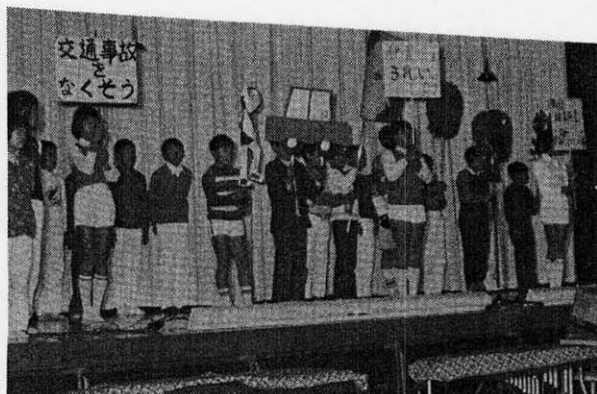
### おんたけ池のいぼ神様

福岡小

おかざきのむかしばなしのお話の劇化。泉の水でお殿様のいぼがとれた……かわいい1年生が出演する。(作 河合安男)

### 縄文時代の人々 藤川小

村上遺跡を中心にして、その当時、岡崎市東部地域に住んでいた人々の様子を、数々の史実をもとにして楽しく創作。(作 酒井 豊)



### ◀ おかざき110年 広幡小

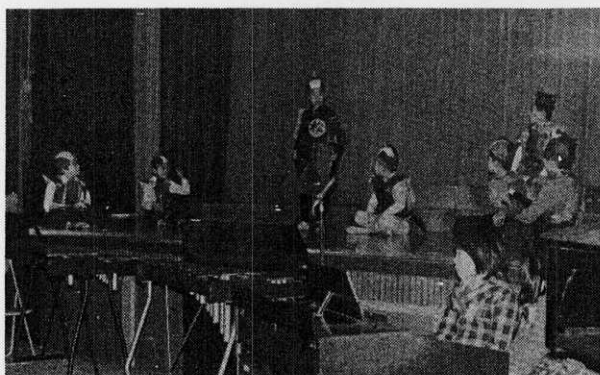
歌と寸劇、教育機器を駆使して綴る、日本の、岡崎の、広幡の明治以後の歴史物語。…上演時間は55分。(作 清水 弘)

### みそかす岩の由来 広幡小

井の口町に残る、ゆかいな「みそかす岩の伝説」の紹介を意図して劇化。(作 内田武雄)



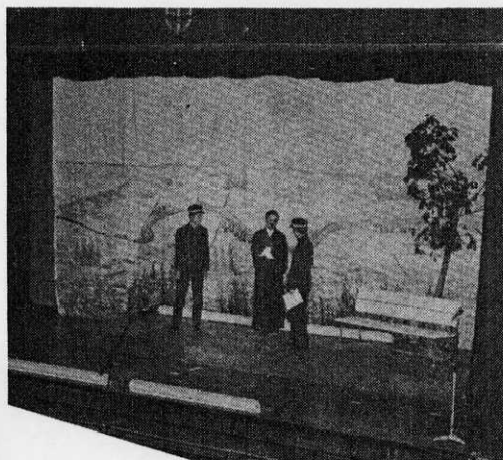
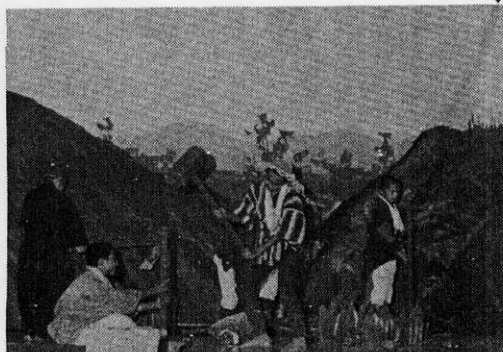
◀ **流 転** 福岡中  
家康公360年祭にあたり、不遇に耐え、たくましく成長していく竹千代の姿を演じたもの。  
(作 記念シナリオ作成委)



▲ **大樹寺** 大樹寺小

家康公のお墓の除幕式から松平八代を知る。桶狭間で敗戦、元康は大樹寺へ逃げ帰る。登誉上人、祖洞坊の活躍。感想作文でまとめる。

(作 近藤克実)



▲ **青年志賀重昂** 南中

郷土の偉人、志賀重昂の若き日の姿を探ろうとしたもの。世界に目を広げる勇氣と決断、燃えた人となりをとらえようとした。  
(作 南中学校行事)

▼ **少年徳川家康** 城北中

天文12年12月26日寅の日寅の刻、強国にとり囲まれた岡崎城で松平広忠の子、竹千代が生まれた。少年時代を三場に分けて上演。

(作 太田政弘)



## 複式学級の

## 子どもたちと

常東小

川本博通

「馬とびをしようよ先生」

「フリーテニスがいいよ」

放課にさそってくれる五年生四名、六年生九名は私の担任する複式学級の子どもたちである。

私は複式学級の担任は初めてであるが、この子たちは殆んど、または、まったく複式で終えようとしている。上級生たちは殆んど単式学級であったのに、児童数五一名の現状ではこれもやむを得ない。

卒業文集から拾ってみよう。

「私たちは五年生の時一度だけ単式で、あとは複式学級でした。一年生の時は複式学級はとてためになつた。そうじも勉強も、いっしょにやる二年生を見習った。」

「五年生で初めて単式になつてうれしかった。今まで算数など自分でやる時間が多かったけど、少なくなつたのではやくできた。それし、先生も一人で二

学年分をいっしょに教えなくともいいのいいい。」

「複式でたるいことは、聞きたいと思つても、先生があつたにいつたりしているのでもつこ

うだということ。でも六年生になつて、教えてもらうのを待つてはだめ、とよくいわれる。そして、自分で考えて、考えたことをノートに書いたりして、言わなくてはいいけないので真けんにもやるでいいと思う。」

「今の複式はとてもおもしろい。馬のりをしたり、フリーテニスをしたり、Sの字をしたり仲よく遊べるので楽しい。」

この学区は、へき地ではないだけに、子どもたちの単式学級に対する羨望のような気持ちはたしかにある。

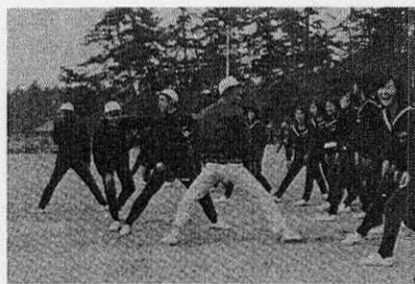
しかし子どもたちが、「今は楽しい。」「仲よく勉強ができたのでよかつた。」間接授業が「真けんにもやるでいい。」と書いていることは

「今を大切に、人を大切に」「自ら学ぶ力と能力づくり」を心がけている私としてはうれしいことである。

今日も純朴な子どもたちと、お互いの温い心情を、はだで感じながら、勉強や、馬のりに夢中になつている私である。



## 教育日々



## 鉄筆とともに

岩津中

牧野好博

きょうも深夜、家族が寝静まつた中で鉄筆を握る。

Y夫の作文を前に、彼も今ごろテスト勉強に励んでいるだろうか、R子の母親からの便りを読み、家庭のふん困気を想像しながら……。

四月当初、ことしの学級経営のひとつの柱として、学級通信によつて親と子、親と教師、生徒と教師という三者の結びつきを深めようと考え、実践してきた。家庭における親子の対話の材料として学級通信を発行し、さらに、私と生徒、私と父兄との意志を通じあう材料にもしたいと考えた。

〔学級通信、一一八号〕

「ただ今。」と言つて帰つて来る子ども、何も言わずカバンの中から出してくれる学級通信。毎日、お忙しい中を書いていただき頭が下がる思いです。

同じ年代の子を持つ親として、子どもたちの気持が「足あと」を通じてよくわかるように思っています。

さて、わが家の子どもも、学年が進むにつれて反発することも多くなり、学校での出来事など何も話さなくなりなりました。小学生だった頃のことをいろいろ思い出して、親からだんだん遠ざかつていくようなチョッピリ淋しい気もしますが、これも成長のあらわれかも……。

「足あと」を通じて、話し合う機会を多くもつようにしていきたいと思つています。(〇男の母)

週に二、三号の発行をと思つてとりくんできたが、父兄や生徒に励まされ、二学期末には一三〇号ほどになりそうである。さらに、同学年でも、目的は少々ちがうかもしれないが、学級通信を発行する三人の仲間がで、いい意味での競争がきょうまで続けてこられた一因とも考えられる。

今後、さらに内容を充実させ、よりよい学級、よりよい生徒の成長、発展を願つて、鉄筆を走らせ続けていきたいと思つて。

おしらせ



### 少年自然の家企画委員会発足

#### 六つの専門委で調査研究

市内須賀町地内二十二万平方メートルの敷地に急ピッチで建設作業が進められている「岡崎市少年自然の家」は、管理棟、宿泊棟の建設と平行して、キャンプ場

【寄贈刊行物・資料等】

◇岡崎の自然第一集 伊藤安彦

千賀敏之・三浦重光共編  
地道な自然観察調査を続ける

若手理科教師三人が、それぞれ鳥類、シダ植物、膜翅目を分担保研究して共同で自費出版。

◇育成—青木先生追悼文集—

男川小学校

校長先生の在りし日を偲び、

冥福を祈りながら職員・児童が心をこめて綴った特集号。

◇文集世のため人のため

岡崎南ライオンズクラブ  
課題作文コンクールの入賞作をまとめたユニークな文集。

て本年五月完成予定であるが、その開所発足をひかえて今施設利用のための準備を進めているのが、「少年自然の家企画委員会」である。

小中学校長会長を委員長として、校長会、現職教育委各部からの全面的な参加を得て、次のような各専門委員会が構成され

### 青木嘉夫先生

男川小学校校長青木嘉夫先生は旧臘十二月二十四日午後八時十分、胃がんのため名古屋の県がんセンターにおいてご死去、五十九歳。

先生は、大正六年知多郡知多町にご出生。昭和十二年岡崎師範卒業後、常滑市常滑小を振り出しに教育界にはいられ、同十六年岡師専攻科卒業。附属小訓導などを経て二十九



年の竜海中以後岡崎市内にご勤務。この間、三十五年香山中教頭、三十八年甲山中教頭

四十三年、初めて常磐中で校長となられ、男川小へは四十七年からのご勤務だった。

男川小ご在任中は、年来の教育理念を実践に移され一貫して「あなたがかい人間関係にたつた学習集団の育成」をめざして献身された。一方、相次ぐ校舎改築、体育館建設事業の先頭に立って学校環境の整備充実にも尽くされ、児童、学区の信望を集めておられた。

先生のご遺徳を偲ぶ学区内の多くの方々の発議により二月五日学区葬が同校体育館でしめやかに挙行された。

ている。組織と分担は次のとおり。( ) 内委員長。

▽利用委員会 Ⅱ 学校、学年別利用配当計画案の作成・輸送方法、必要経費の調査研究など。

(竹内岩津小長)

▽プログラム作成委員会 Ⅱ 学年別学習プログラム例の作成・日課表、生活規律案の作成など。

(粟田矢作南小長)

▽自然調査等委員会 Ⅱ 生物、地学的自然の調査研究、学年別観察学習の調査研究など(鈴木竜美丘小長)

▽森利用等委員会 Ⅱ 森利用による野外活動施設の研究・森利用のための奉仕活動計画など(神谷福岡中長)

▽備品等調査委員会 Ⅱ 必要備品の調査研究・各専門委所要経費の計画記録(横田六ツ美中長)

▽研修の手引等委員会 Ⅱ 指導者用研修の手引の作成など(岩月井田小長)

■市民駅伝四年ぶり甲山優勝

第28回岡崎市民駅伝競走大会

1月23日・県岡崎総合運動場(中学校の部六位まで)

【チーム】①甲山中A 49分24秒

②東海中A 49・33 ③城北中A 49

④47矢作中A 50・28 ⑤葵中A

50・54 ⑥常磐中A 51・05

【区間賞】▽一区 兼子薫(甲

山A) 10分58秒▽二区 鈴木富

雄(東海A) 6・35▽三区 八

巻尚良(甲山A) 5・38▽四区

柴田英治(岩津A) 5・30▽

五区 松本聡(甲山A) 7・34

▽六区 嶋井郁夫(葵A) 柏木

敦(甲山C) 6・50▽七区 岡

田邦義(城北A) 5・35

■南中の道徳教育全国表彰

一月二十八日東京教育大附属小

で開催された日本教育研究団体

連合会(平塚益徳会長) 第一回

総会の席上南中学校が道徳教育

部門優秀校として表彰された。

これは同校の長期に亘る道徳

教育、及び特別活動と道徳教育

との関連の指導の成果が認めら

れたものだが、この間四十九年

には全日中道徳教育第八回全国

大会の会場校として研究実践を

公表し全国的に多大の感銘を呼

び起こし今日の地歩を築いたも

の。なお、五十一年三月にはそ

れまでの研究の集大成として「

人間性を育てる特別活動」を出

版している。

■根石小研究発表会 2月9日

▽主題 望ましい生活態度・習

慣の育成(児童会活動を通して)

▽内容 全校集会、児童会活動

学級会活動等の公開、研究発表、

指導講話「新しい教育課程と特

別活動(筑波大相川高雄先生)

# 小呂の一本松



所在地 — 岡崎市小呂町高橋

河村喜一さんの話によると、先々代の河村甚三郎という人が小呂街道を通る旅人のため、日影をつくる目的で植えたという。

一村人の善意が実を結び、約二百年間、旅人のいこいの場所として、あるいは目じるしとして、「小呂の一本松」として親しまれ、役立ってきた。

この松の下にある地蔵さまは、「首われ地蔵」とよばれ、次のような話が伝わっている。

明治の初め、一人の石工が、仕事で起きたいさかいの腹いせに、石を投げて地蔵さまの首を落としてしまった。

その夜、石工は高い熱を出しうなされた。翌日、どうにか起き上がり、石切り場へ出かけたものの、落下してきた岩の下敷きになって死んでしまったという。〈高さ十三・五米。目通り三米。樹齢二百年〉

カッパ

福岡中

小川

武夫

## この本を

- 新釈 遠野物語 井上ひさし ￥ 880
- 筑摩書房
- 城塞 上・中・下 司馬遼太郎
- 新潮社 上 ￥ 360・中・下 ￥ 320
- だめの子日記 光吉智加枝 ￥ 580
- 小学館
- 日本人材論 会田雄次 ￥ 750
- 講談社
- 日本人の仲間意識 米山 俊直 ￥ 390
- 講談社現代新書
- 日本語の技術 清水幾太郎 ￥ 630
- ごま書房
- 絵とは何か 坂崎 乙郎 ￥ 800
- 河出書房新社
- 私の浅草 沢村 貞子 ￥ 950
- 暮しの手帖社
- 日本には教育がない M・トケイヤー ￥ 890
- 徳間書店
- 身近な薬草 大原準之助 ￥ 980
- 風媒社

劇を作ることは、素人にはなかなか至難の技。体がもう一つほしいほど忙しい毎日の中で、郷土の民話・伝承を、偉人を掘り出して、脚色する苦勞は並大抵なものではない。でも、みなさん、やってみますねえ、私も負けられません。

今年もがんばりますよ。テレビで平均化された子どもの目を郷土に向けさせるために。

## けしごむ

娯楽は、人間にとって正常な活動を維持するために大切なものである。今日、余暇の時間増加は娯楽の内容を多岐にした。子供の心をいやが上にもかきたてる、合理的で華麗なもろもろの施設も数を増した。近代な娯楽は、営利のみが先行して味気ないものが多い。素材でもいい、血の通った娯楽を、今一度子供たちに呼び戻したいものである。

初春は、ほぼ二月にあたる。学の有るのが、上春・孟春と教えてくられておいて、春寒・芝焼などの季語を口にす。『白魚も二月だな』と誰かが付け足す頃から飲む話に……。春菊・新海苔とでて、帰りは飲み屋へ直行と衆議一決。週末の職員室夕景。

春寒も人円居して暖かき 虚子

昔からの童謡・童話に、捨てがたいものがいっぱいある。ところで、今の子供たちは童謡を知らない。そのかわりに、コマ・シャルソングをたくさん知っているというのだろう。教科書に、不滅の童謡をどんとどとり入れて行ったら、打算的で利己的な今の子供たちに、夢とロマンが蘇えるのではないだろうか。